

議長ティータイム

日時：令和2年3月30日（月）午後3時半～

場所：議長応接室

（議長）

本日はお集まりいただきありがとうございます。

1 今定例会を振り返って

首里城の早期復元・復興、新型コロナに関する意見書、普天間基地の運用停止の意見書、北部基幹病院の早期整備が特に今議会の主なところじゃないかと思っております。そして、豚熱とコロナの緊急対策については、議会としても執行部に説明を求めて、議員も一緒に共通理解をしているということで、取り組んでまいりました。以上が、簡単に今議会に関することです。

2 議長としての4年を振り返って

4年を振り返ると、平成28年に議長になりまして、6月議会に議長に就任して6月議会が始まり、それが終わるとすぐ全国の議長会がありました。全国議長会の定例会で、新しい役員が決まるわけですが、そのときに輪番制がありました。九州ブロック輪番で、沖縄県が全国議長会の副会長に就任いたしました。翌年、平成29年7月には、九州各県議会議長会の会長に就任いたしました。そういう意味では、貴重な体験をさせていただいたと思っております。何でか分からないですけども、私が会長になったら、なかなかスムーズに終わらない課題が2つぐらいありまして、その調整をまとめてたりしないといけない、解決しなくてはならないということが、そのときにありました。平成29年8月には、九州各県議会議長会が本県において開催されました。私が九州議長会会長に就任して初めての会議となりました。

それから議員海外派遣は、平成28年の8月に沖縄県人ペルー移住110周年記念式典がありました。そして引き続き、同年9月にブラジル沖縄県人会創立90周年記念式典がありました。県議会は私が団長で、12名の議員を派遣しております。

また、2年後にあたる平成30年の8月には、ブラジル沖縄県人移民110周年記念祭典、在アルゼンチン沖縄県人移住110周年記念式典、ボリビア沖縄県人移住110周年記念式典へ、私を団長として10名の県議団が訪問しております。ブラジルの行事が終わり、アルゼンチンで行事をこなしている途中に、翁長前知事が逝去したという連絡がありまして、アルゼンチンの日程を全部終え、最後の訪問国のボリビアにみんなが移動するときに、私をのぞく他の方たちがボリビアに行き、副団長に団長の職務を代行していただくという話し合いをして、私は沖縄に帰りました。沖縄に帰る翌日ぐらいには告別

式だったので、急いで帰らないといけない状況でした。

また平成 29 年には、国家賠償請求事件がありました。ある映画制作会社が、沖縄県議会の審議の素材映像を取得したいということで、平成 29 年 7 月 14 日開催の沖縄県本会議を取材するため、議長の私に許可を求めました。傍聴規則、先例録、それから議会運営委員会報告、さらには弁護士の意見等を踏まえて、最終的に議長が判断しないとイケませんので、不許可ということにいたしました。それを不服として、沖縄県を相手として裁判になりました。今年の令和 2 年 1 月には、私が原告代表者に対する証人尋問を受けております。ついこの間の 3 月 25 日に結審しております。判決期日は 8 月 5 日に予定されています。それを受けて、これからどうするかという話が、当然されないといけません。その時期は私はもう議長ではないので、次の議長とこれまでの経過をお話ししていきたいと思っています。できたら私としては、在任中に判決が出たほうが、その後の対応をどうするかということが決められると思ったのですが、判決が退任後の 8 月ということを知って、もうこれは次の議長に託すしかないなと思っています。

それから、奄美大島の宇検村船越海岸に「対馬丸慰霊之碑」が建立されまして、平成 29 年に除幕式が行われて、県には連絡があったようで、浦崎副知事が出席しております。

対馬丸が宇検村から 100 キロ先の悪石島というところの近くで撃沈されて、そして、生きている方も、亡くなった方も、潮の流れで、宇検村の辺りに着くんですね。宇検村の皆さんは当時、生存者の救出活動、それから亡くなった方の遺体を砂浜に埋める埋葬作業、そういったことをしてこられて、戦後 70 年を超えて対馬丸の慰霊碑を建てようという動きが出てきたんですね。そういう戦争の歴史を継承していかないとイケないという宇検村の皆さんの活動、そして実際に慰霊碑を建立していただいたということからすると、私も県議会議長をしている間は、毎年参拝に行こうと思っており、平成 30 年の 4 月、平成 31 年の 4 月参拝しております。そして今年も行く予定なのですが、4 月に行こうかと思っていたら、選挙の真っ最中なので、なかなかそういう時期に行くことが難しいものですから、選挙が終わってから、6 月に参拝しようと考えております。一昨年は、宇検村を訪ねて、村長、副村長、一部の議員の皆さんと話し合いをし、案内していただきました。去年は、村長、副村長にもお会いしましたが、語り部の方から、対馬丸関係に加え、当時の戦争の状況や、自分が体験したことなどもお聞きすることができました。戦争の悲惨さをしっかりと受け継いでいかないとイケないという考えを持っておられて、戦争の当時のことを非常にしっかりと記憶し、また、どういうことがあったかということを知りたくて話しておられて、とてもすごいなと思いました。その方も慰霊碑建立の運動をした方なんですね。

それから、平成 30 年には県民投票がありました。とても紆余曲折がある県民投票でした。圧倒的多数で可決をして、そしてすべての市町村で実施をすることが出来たので、非常に良かったと思っています。

そのことによって、沖縄の民意を、明確に全国に向けて示すことが出来たと思っていますので、二択か三択かという議論もありましたが、一番大事なことは、何のために県民投票をするかということを見ると、やはり全県実施しないことには民意を示せな

いのではないかという、私の強い思いがありました。ですから、水面下での話を何回かやってきましたが、最終的に全県実施になったこと。もちろんこれは皆さまにもばれないように県議会をまとめながら、水面下では5市の市長ともお会いしました。私の考え方の三択も示しながら、話し合いをしていって、それを県議会が決めれば参加するという感触をみんな得ておりました。明確にははっきりとは言わないけれども、皆さん大体前向きでしたので、あとはもう県議会がしっかりとやらないといけないということを感じておりました。ですから、たいへん結果的としては良かったんじゃないかと思えます。いろいろ終わってからも賛否がありましたけれども、一番大事なものは、県民全員が参加して投票をするということ。そうでないと意義がそれてしまいますから、そういう意味では、私は今でも、三択で実施して、全県民参加という体制が作れたのは、とても良かったと思っています。

それから、令和元年10月31日は、首里城の火災が起きました。そのとき、県議会30名は台湾に視察に行っていたんです。私は当初から1日目の日程が終わったら、2日目の真夜中に台湾を出て、沖縄へ戻り、福井県に行って全国議長会に参加する予定でしたので、その後は副議長に台湾での団長の代わりをしてもらうということ、出発前に決めてありましたが、台湾を出ようとしたら首里城が燃えているということが分かりまして、大急ぎ沖縄へ戻り、状況を聞いて首里城の近くへ向かいました。首里城の龍潭池の側、それから反対の高台の辺りから首里城を見たりしました。翌日は午前、焼け落ちた首里城の中に入って、30メートルくらい離れたところから、正殿や周辺を、少し見学させていただきました。私、首里城を見てはいるけれども、細かいことなどは勉強してなかったものですから、どうも関係者で一番早く中に入ったらしくて、出てきたらマスクミに取り囲まれて色々質問を受けましたが、ひとつも答えられませんでしたね。「スプリンクラーは機能しましたか」という質問にはびっくりしましたね。スプリンクラーがついてるかついてないかさえも知らないわけですよ。機能するかしらないかの問題じゃないんですよ。だからそういったところが、首里城のことをほとんど知っていなかったと。そして、この防火体制がどうなっていたかとかいうものは、ほとんど考えてもいなかったことでした。まあそういう中で、首里城の火災があり、今、防火体制について非常に真剣に検討委員会をはじめ、いろいろなところで協議されているということは、たいへん結構なことだと思いますし、しっかり防火・防災について、首里城を再建するときに、そこをまたしっかり考えてないといけないことだと思っています。

議会としては、皆さんご存知のように、1月1日から6月24日まで、首里城の復旧・復興に向けた支援に取り組むべく、議員報酬を月に2万円ずつ減額をする特例条例を全会一致で制定しました。そして、その後どうするかという話も実はそのときにありましたが、それはまた新しく当選した人たちがまた協議してほしいと言っておりますので、おそらく次の議員たちも何か月間か継続するのではないのかと思っています。そこは、次に当選した人たちが話し合いしてくれると思っています。

そして、高校生議会の実施であります。昨年11月7日、県内18校56人の高校生が議場に集まり、10年ぶりに高校生議会を開催しました。反応としては、各学校からの意見などを聞きますと、非常にいい反応だったようですから、私個人としては、事務局や他の議員たちとも話をしましたが、10年に1回じゃなくなくて、3、4年に1回ぐ

らい開催した方がいいのではないかなあという感じを受けますね。10年に1回だと、そのこと自体があったのかどうか、10年後の高校生じゃ分からないんですよね。やはり若い人たちに、政治参加、政治に関心を持ってもらう、県議会の意義などを理解をしてもらう、一種の啓発とか、そういうことを考えると、できれば3、4年に1回はやってほしいなという感じを受けております。そのほかに、高校生出前講座の実施など議員のみなさんが、党派を超えて、学校を訪ねて、そこで生徒たちと、いろいろ質問を聞いたり、話をしたり、これも非常に好評なようで、県議会に対する理解が深まったという報告を受けております。

それから、フィリピン沖縄県出身戦没者追悼式と全南洋群島沖縄県人戦没者慰霊祭が毎年実施されております。そこには、県議会議長、または副議長が参列してきました。どちらの慰霊祭も旅行社が企画する墓参団としては、昨年を持って最後になったことから、全県議会議員団に参加を呼びかけたところ、それぞれの慰霊祭に8名ずつ参加の申し出があり、「沖縄県議会議員団」として参加してまいりました。

では、どうもありがとうございました。お疲れ様でした。以上